



す



め

患者さんと慶應義塾大学病院をつなぐ  
コミュニケーションマガジン

KEIO  
UNIVERSITY  
HOSPITAL  
.....  
Communication  
Magazine

Vol. 14  
November 2021

ご自由に  
お持ちください

KEIO  
KEIO UNIVERSITY  
HOSPITAL  
100th ANNIVERSARY

患者さん目線で安心安全な病院を目指します  
2021年9月1日から慶應義塾大学病院は新しい執行部でスタートいたしました。



### 慶應義塾大学病院の理念

- 患者さんに優しく患者さんに信頼される患者さん中心の医療を行います
- 先進的医療を開発し質の高い安全な医療を提供します
- 豊かな人間性と深い知性を有する医療人を育成します
- 人権を尊重した医学と医療を通して人類の福祉に貢献します

広報誌タイトル「すゝめ」とは

タイトルは明治5年から9年にわたって出版された17編を数える  
福澤諭吉の大ベストセラー「学問のすゝめ」に因んでいます。

本誌の撮影は、感染対策に配慮して行っております。

# 患者さんにやさしさを提供する 病院でありたい



第32代病院長  
まつもと もりお  
松本 守雄



イラスト:玉川知鮎(薬剤部)

本年9月1日付けで、整形外科学教授の松本守雄が病院長に就任いたしました。就任して約2か月の間取り組んできたこと、松本病院長が目指す慶應義塾大学病院（以下、慶應病院）について語ります。

「就任して間もなく、新型コロナウイルスの感染者が、かなり増えましたので、まずは行政の要請に応じて病床を増やして、感染者の受け入れや治療に緊張感をもって対応しました。一時は通常診療を制限せざるを得ない状況でしたが、慶應病院が従来行っている高度な医療もしっかりと提供できるように一生懸命取り組んできました」

夏には、新型コロナウイルス感染症の爆発的な拡大への対応に加えて、オリンピック・パラリンピックの医療

支援も行いました。社会への使命と病院の役割を両立するために必要だったのは、部門の垣根を越えて取り組むチーム医療です。

「医療者のモチベーションを維持するためにも、負担がいか所に集中しないように、部門間で協力しあい、しっかりチームを組む体制が必要で。医師、看護師、技師など多職種のチームワークが慶應病院の特徴のひとつです。コロナ禍ですらに培われたチーム医療で、これからも慶應病院全体の総合力を高めていきたいです」

松本病院長が医師を目指したきっかけは、小学生の頃に野口英世の伝記を読み、命をかけてまで伝染病の研究に打ち込むひたむきな姿が心に刻まれたことです。その思いを胸に医師となり、整形外科を専門としました。

「整形外科の特徴のひとつは、患者さんのQOL（クオリティ・オブ・ライフ、生活の質）の向上を大事にしていることです。例えば、同じ椎

間板ヘルニアの患者さんであっても、すぐに競技に復帰したいアスリートは手術を希望されるでしょうし、時間にとりがあつてゆっくり治したい方は保存的な治療を希望されることもあります。患者さんとよくお話をし、患者さんそれぞれの生活やご希望にあわせた治療方針を決めていくんです」

松本病院長が大切にしている患者さんとの対話、患者さんの目線に立った医療は、まさに慶應病院の理念「患者さんに優しく、患者さんに信頼される 患者さん中心の医療を行います（抜粋）」につながります。

「患者さんにやさしいというのは、もちろん患者さんに親切に、ということには常に心がけていますが、それだけじゃないんです。例えば手術においては、皮膚を切る範囲を減らし、出血を減少させ、手術時間を短縮する低侵襲の手術は、感染率も減るし、負担が少ないので患者さんにやさしいですよ。そのためにはロボット技術を取り入れる

など、高度な手術の技術を磨く努力をする必要があります。また、大学病院として臨床研究を活発に行つて、新しい治療法を開発し、治療の辛さを少しでも軽減する方法を見つけることも患者さんへのやさしさだと思います。いろいろな意味で、患者さんにやさしさを提供する病院でありたいですね」

## 病院執行部

- 病院長 松本 守雄
- 副病院長 大家 基嗣
- 佐々木 淳一
- 志水 秀行
- 陣崎 雅弘
- 長谷川 奉延
- 福永 興壹
- 病院長補佐 朝倉 啓介
- 金 祐子
- 藤澤 大介
- 事務局長 松田 美紀子
- 看護部長 加藤 恵里子

(五十音順)

## 病院長の素顔 Q & A

- Q ストレス解消法は？  
A ジョギングです。夜や休日に走って頭をすっきりさせています。
- Q 朝が早いとお聞きしましたが？  
A 4時に起きて、静かな時間の中コーヒーを飲んで6時から仕事を始めます。
- Q リーダーシップ像は？  
A 風を切って先頭を行くタイプではないので、調和をとるリーダーですね。コミュニケーションをとりやすくするために、教室のドアはいつも開けて入りやすいようにしています。
- Q 好きな言葉は？  
A 「問題は解決されるためにある」という言葉です。くじけそうになっても、肅々としっかり努力していけば、いつかは解決されると思うようにしています。



性分化疾患(DSD※)とは、性染色体、性腺、内性器、外性器のいずれかが非定型な先天的状態です。ターナー症候群やクラインフェルター症候群、停留精巣や尿道下裂、非定型の外性器で性別決定に難渋する赤ちゃん、初経(初潮)が来ないことをきっかけに診断される成人女性など、さまざまな患者さんが含まれます。大部分の方がホルモン補充療法や外科的手術を必要とし、長期にわたる医療の提供が重要です。慶應義塾大学病院では全国に先駆けて、1990年代から小児期のDSDに関する診療科横断的なチーム医療を行ってきました。しかし、近年DSDに関する医療は大きく進歩しました。すなわち病態解明は著しく、新しい診断法・治療法が開発され、心理社会的支援は具体化しました。そこで2019年に、この医療の進歩を取り入れ、高い専門性を有する各診療科が連携し、一人ひとりの患者さんにとって最善の医療を提供するための性分化疾患(DSD)センターを開設しました。

側弯症とは背骨が側方や後方にねじれる様に曲がる疾患です。側弯症が進行すると心理的なストレスを感じるだけでなく、腰痛や背部痛、肺活量の低下、消化器症状、神経障害などにより日常生活活動に重大な障害をきたすようになります。

側弯症は発症年齢によって早期発症側弯症、思春期側弯症、成人脊柱変形に分類され、その病態は多様です。9歳以下で発症する早期発症側弯症には、先天的な椎体変形が原因の先天性側弯症、神経や筋の異常や



思春期特発性側弯症(術前)



思春期特発性側弯症(術後)

性分化疾患(DSD)センターは、胎児から成人に至る全ての年齢を対象とし、緊急性を問わず、あらゆる性分化疾患を診療するための全国で初めてのクラスター部門です。小児科、腎臓・内分泌・代謝内科、泌尿

器科、小児外科、産婦人科、形成外科、精神・神経科、臨床遺伝学センターを中心に専門の外來を設置し、臨床検査技師、看護師、臨床心理士も交えた多職種による包括的な診療を行っています。性分化疾患の内



## 性分化疾患(DSD)センター

—全国初のDSDに対する包括的医療—

はせがわ とも のぶ  
小児科 医師 長谷川 奉延

## 側弯症診療センター

—安心で安全な最先端側弯症診療を目指して—

わたなべ こおた  
整形外科 医師 渡辺 航太



全身の臓器に異常を伴う症候性側弯症など多くの病態があります。そのため、小児科、小児外科、臨床遺伝学センター、麻酔科と密に情報共有し連携しながら診療を行っております。10〜18歳で発症する思春期

側弯症の発生頻度は1〜2%と高く、特に女子に多くみられる疾患です。思春期側弯症は主に学校検診で見ることが多いため、学校検診の二次スクリーニングとなる外來診療、進行予防のための徹底した装



科的治療、外科的治療はもちろんですが、心理社会的支援、遺伝カウンセリング、遺伝学的検査、非定型の外性器を持つて生まれた赤ちゃんの法律上の性別決定の支援、性分化疾患を持った方の性別違和(性別不適合)などにも対応しています。DSDの症例に心あたりがありお悩みの方、またDSDが疑われる方をご存知の際はぜひ当センターにご相談ください。

具治療を行っています。近年の高齢社会を背景に、成人脊柱変形も大きな課題となっています。高齢の方では骨粗鬆症やフレイル(年齢を重ねることにより心身が弱くなっている状態)を合併していることが多く、身体機能だけでなく心肺機能も低下している場合が多く治療に難渋します。診断には放射線科による最新の画像技術を用い、治療には麻酔科(ペインクリニック)による疼痛コントロール、リハビリテーション科による日常生活動作の改善、そして骨粗鬆症外來(整形外科)との密な連携により、より効果的な治療を目指しています。

従来、側弯症診療は整形外科を中心に行ってきましたが、安心して安全な診療、そして最先端で高度な医療を提供するため、側弯症診療センターを設立し、多科の先生方と連携しながら診療を進めております。側弯症でお困りの場合は、ぜひ、側弯症診療センターにご相談ください。

※DSD: Differences / Disorders of Sex Development

# 冬の感染症に備えましょう

## 感染症は新型コロナウイルスだけではありません

2021年10月現在、新型コロナウイルスの新規感染者数は減少しています。しかし、ウイルスは低温、乾燥した環境を好むといわれています。新型コロナウイルス感染症の第6波に備えて対策を継続しつつ、その他のウイルスによる感染症にも注意が必要です。代表的な感染症についてご紹介します。

### 冬に流行る代表的な呼吸器感染症 インフルエンザ

昨年度インフルエンザの流行はありませんでしたが、今年は流行を予測するのに参考になる南半球のインフルエンザの患者は極めて少数であったものの、インドやバングラデッシュなどで流行が認められています。国を超えた人の動きが活発になると、日本にも感染が広がるかもしれません。

予防策としてワクチン接種があります。10月～接種は始まっています。効果が出るまでに2週間程度かかりますので計画的に進めていきましょう。その他の予防策としてはインフルエンザも飛沫感染なので、今まで行ってきたユニバーサルマスクや手指衛生、換気、加湿などを継続して行い予防に努めましょう。発熱や呼吸器症状などが見られた場合、新型コロナウイルスとの鑑別や抗インフルエンザ薬による治療を受けるために速やかに医療機関を受診しましょう。

### 冬に流行る感染性胃腸炎 ノロウイルスやロタウイルス

秋から冬にかけて流行があるノロウイルスは、感染者の便や吐物、汚染された二枚貝類の生食や加熱不十分な料理を摂取することにより広がります。コントロールのきかない嘔吐や下痢が主な症状です。冬から春にかけて流行するロタウイルスは、乳幼児に水のような下痢と嘔吐を引き起こします。口からウイルスが入ることで感染します。

どちらも少量のウイルスでうつる非常に感染力の強い胃腸炎です。ロタウイルスには0歳児で接種するワクチンがありますが、ノロウイルスにワクチンはありません。どちらも特効薬はないので、罹患してしまったら、脱水症状を引き起こさないように水分補給を十分にいきい安静にして過ごしましょう。吐物による誤嚥にも注意が必要です。水分が取れないほどひどい症状の時にはすぐに医療機関を受診しましょう。

急な嘔吐や激しい下痢によって環境が汚染されやすいことにも注意が必要です。家族の中で感染者が出た場合は、吐物や排泄物に触れた後には手を洗い、よく触れる部分の消毒や、感染期間中はタオルなど共有せず感染が広がらないように対策を取りましょう。どちらのウイルスもアルコール消毒では効果が薄いので、嘔吐や下痢の対応をした後には、流水と石鹸で手をきれいにすることがポイントです。

### 手洗いの、5つのタイミング



引用：厚生労働省ホームページ [https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/0000121431\\_00094.html](https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/0000121431_00094.html)



## 患者さんとご家族の 医療と暮らしを支えます

外来では、医療と暮らしの両方の視点から患者さんのライフサイクル・ライフスタイルに合わせた療養生活をサポートするために、患者さんとご家族の方を対象に看護相談を行っています。

3Bの外来には、慢性呼吸器疾患、消化器疾患を持つ患者さんをはじめ、手術前後の患者さん、がん治療中の患者さんなど多くの方が受診されています。AYA世代(※)と呼ばれる思春期・若年成人の方から90歳を超える高齢の方まで、幅広い世代の患者さんを対象としています。

私たちは、患者さんやご家族に、治療中の体調や生活の状況を確認し、一人ひとりに合わせた支援を行っています。支援の内容はさまざままで、ご自宅での医療処置の説明や指導、手術前のオリエンテーションをはじめ、療養や生活に関することなど多岐にわたります。例えば、治療の選択や変更、中止等を検討する際には、看護師からも患者さんやご家族に情報提供を行い、お気持ちを確認しながら患者さんのご意向を尊重した意思決定を支援できるよう取り組んでいます。また、治療と仕事の両方を継続するための就労支援、がん治療における生殖医療の相談・紹介なども行っています。さらに患者さんがご自



宅で安心して療養生活を送れるよう、お住まいの地域の医療者等への橋渡しを行っています。これら以外にも、療養により精神的な不安を抱えている患者さんやご家族、とりわけお子さんへの支援にも力を入れています。

私たち外来の看護師が中心となり、医師や薬剤師をはじめ、栄養士、ソーシャルワーカー、そしてより高度なケア提供を行う専門看護師などさまざまなスタッフと連携を図り、チームでサポートいたします。今後も患者さんにご家族の医療と暮らしを支える包括的な看護に取り組みで参ります。お困りの際には、気軽にお声掛けください。

※ AYA (世代): Adolescent and Young Adult

## 親や家族ががんの子どもへのサポート プログラム参加者募集 (SKiP KEIO主催)

下記のプログラムをオンラインで定期的開催しています。

### ①「Web キッズ探検隊」

がんとその治療について学び、Webを通して病院の中を見学します。

【日時】2021年12月25日(土)15時～16時30分  
【対象】家族(親、きょうだい、祖父母)が当院でがん治療を受けており、家族のがんの説明を受けている「小学生・幼稚園年長のお子さん」

【詳細・申込み】右記QRコードをご参照ください。



### ②「Web CLIMB®プログラム」

がんとその治療、親ががんであるために生じる気持ちへの対処等について学びます。

【日時】2022年3月6日、13日、20日、27日(日曜日)  
10時～11時30分(全4回)

【対象】親が当院でがん治療を受けていて、親ががんであることの説明を受けている「小学生のお子さん」

【詳細・申込み】右記QRコードをご参照ください。



## SKiP KEIOとは

多職種で構成される「がんの親を持つ子どもへのサポートチーム(Supporting Kids of Parents with Cancer)」で、がん患者さんとその子どもへの支援を中心としたさまざまな活動をしています。活動についてはKOMPAS(右記QRコード)でもご紹介しています。



お問合せ

がん相談支援センター  
電話：03-5363-3285(直通)

## WEB患者サロンについて

新型コロナウイルスの感染状況を考慮し中止していましたが患者サロンをオンライン版にて再開しました。それぞれ頑張っていること、工夫していることなど、Zoomを通して語り合いませんか?皆さまのご参加をお待ちしております。次回は2月頃を予定しています。

【テーマ】がん治療と生活と私～みんなで語り合おう～  
【日時】2021年12月7日(火)16時～17時  
【対象】当院で通院中のがん患者さん(先着15名)  
【申込み】QRコードより申込フォームにご入力ください。



お問合せ

がん相談支援センター  
電話：03-5363-3285(直通)



## WEB面会について

新型コロナウイルス感染症のリスクから入院患者さんを守るため、当院では原則面会を制限しております。そのため入院患者さんやご家族の表情が見え、少しでも安心できるようWEB面会を導入しております。

病棟でiPadを準備しておりますので、ご希望の方は入院病棟よりお申し込みください。ご家族は2号館1階の患者総合相談部からでもWEB面会が出来ますので、病棟で申し込みをお願いいたします。



患者総合相談部

WEB面会対応：月～金曜日(祝祭日除く)、  
時間15～17時、1回30分程度

## 東京2020オリンピック・パラリンピックへの医療スタッフ派遣

今大会への協力を通じて得た経験は、今後の病院運営と患者さんへの医療提供に活かしてまいります。



オリンピック・パラリンピックは、新型コロナウイルス感染症拡大による緊急事態宣言下で両大会とも無観客開催となりましたが、当院は国立競技場(オリンピックスタジアム)に、会場医療責任者の救急科佐々木淳一教授をはじめとした医師17名と看護師20名を派遣して、大会関係者への医療支援を行いました。

2012年ロンドン大会で実践された「ICEM(大規模競技会場におけるイベント時医療対応)」を、救急科の医師が実際にロンドンで学び、オリンピックスタジアムに適応させた慶應オリジナル版の「会場内完結型の医療提供」を行いました。

一方で、救急科の医師が会場に派遣される大会期間中は、各診療科から救急外来に医師を配置するなどの協力体制で通常診療を維持しました。また、会場近隣医療施設としてテロ等の災害発生時や多数傷病者発生などの有事にも対応できるよう、院内の関係部門が協力してマニュアルを作成し、災害訓練や警備強化等を行いました。

## 〈受付時間・休診日〉

外来診療時間 8時40分～12時00分、13時00分～16時00分

面会時間 ※新型コロナウイルス感染拡大防止のため、現在は原則禁止とさせていただきます。詳しくは病院のウェブサイトをご覧ください。

休診日 日曜日、第1・3土曜日 / 国民の祝日・休日 / 年末年始(12月30日～1月4日) / 慶應義塾の休日(1月10日)

## 〈診療担当医表〉

このQRコードをスマートフォンなどで読み取っていただくと診療担当医表がご覧になれます。なお病院入り口脇の電子掲示板にも掲載しています。

